HOKUGA 北海学園学術情報リポジトリ

学校法人北海学園
北海学園大学
北海商科大学

タイトル	「どのユダヤ人とも交渉したことはない。」― 作家ルドヴィート・ミストリーク＝オンドレヨフによるアーリア化 ― ……ヤーン・フラヴィンカ
著者	木村，和範；KIMURA，Kazunori
引用	北海学園大学経済論集，73(2)：51-74
発行日	2025-11-30

Hokkai-Gakuen Organization of Knowledge Ubiquitous through Gaining Archives.

《翻訳》

「どのユダヤ人とも交渉したことはない。」

── 作家ルドヴィート・ミストリーク＝オンドレヨフによるアーリア化* ──

ヤーン・フラヴィンカ**
木　村　和　範（訳）***

【要旨】

本研究は，1939 年から 1945 年までのスロバキアでユダヤ人資産の「アーリア化」に関与した著名作家ルドヴィート・ミストリーク＝オンドレヨフ（Ľudovít Mistrík-Ondrejov）を取り上げる。この作家がブラチスラバのユダヤ人企業をアーリア化したことは，周知の事実である。ミストリーク＝オンドレヨフが関与したアーリア化として従来取り上げられてきた事例は，しばしばスロバキアのメディアが注目していたが，1941 年 9 月に所有権を移転したステイネル書店 1 社に限定されている。

本研究では，作家ルドヴィート・ミストリーク＝オンドレヨフのアーリア化がステイネル書店にとどまらず，その規模においてそれをはるかに上回る大企業（ケンツレル社）の株式 50% を 1941 年 7 月にアーリア化していたことが取り上げられている。

さらに本研究では，ルドヴィート・ミストリーク＝オンドレヨフが，ブラチスラバのこれら 2 社の（完全［単独で］または部分的な［共同で］）「アーリア化の担い手」に指定された理由と併せて，この 2 社のアーリア化に係る財務的側面を分析することも目的としている。また，ルドヴィート・ミストリーク＝オンドレヨフと 2 社の元のオーナーとの関係（より正確に言えば，アーリア化の後にこの作家が成功裡にオーナーを当該企業から追放したこと）も考察されている。

本稿では，2 件のアーリア化に関する未公表でほとんど知られていない新発見の事実を指摘する。それは，ルドヴィート・ミストリーク＝オンドレヨフがアーリア化した 2 社については，いずれの企業も 1944 年

＊Ján Hlavinka, "'I never negotiated with the Jew.' On the Aryanizations of Slovak Writer Ľudovít Mistrík-Ondrejov," *Historický časopis*,［*Historical Journal*,］2020, 68, 6, pp. 1029–1048, Bratislava. Website of the *Slovak Academy of Science*, https://www.sav.sk/journals/02191201Hlavinka.pdf, accessed on May 3, 2025.
DOI（デジタルオブジェクト識別子）：https://doi.org/10.31577/histcaso.2020.68.6.5
底本には英語とドイツ語による要旨が付いているが，より詳細なドイツ語版要旨を訳出した。日本語版の出版は執筆者の許諾済み。［ ］内および訳注は訳者による。

＊＊Dr. Ján Hlavinka，スロバキア科学アカデミー歴史研究所（Historický ústav, Slovenskej Akademie Vied (SAV); Institute of History, Slovak Academy of Sciences (SAS)）
＊＊＊本学名誉教授

末にはアーリア化が取消処分となったことであるが，本稿では，それを証明する文書に言及し，フリンカ・スロバキア国民党政権による取消処分に対するミストリーク＝オンドレヨフの抗弁を取り上げる。

キーワード：ホロコースト (Holocaust)，アーリア化 (Aryanization)，
ブラチスラバ (Bratislava)，ルドヴィート・ミストリーク＝
オンドレヨフ (Ľudovít Mistrík-Ondrejov)，ユダヤ人 (Jew)

どのような人物にも伝記が１種類しかない，などということはない。一般大衆に向けた「公的」な伝記がある一方で，ごく近しい人に向けた「私的」な伝記があると言われている。スロバキアの著名作家ルドヴィート・ミストリーク (Ľudovít Mistrík)（ペンネームはルド・オンドレヨフ (Ľudo Ondrejov)）の事例は，このような意見をもっともだと思わせる説得力がある。「教科書」にふさわしい作品を執筆する作家先生（複数）の伝記を多くの読者が知るようになるのは，選りすぐりの事実についての作品を通じてか，あるいはちょっとした経歴が出てくる作品を読むことによってである。いずれにしても「公的」と「私的」，２通りの伝記は，時の経過とともに書き換えられる。このことは，どの作家にも寸分たがわず当てはまる。

今日，スロバキアの一般市民は，作家ルドヴィート・ミストリーク＝オンドレヨフ［以下，「ミストリーク＝オンドレヨフ」と言う。］のことを，小説『アウトローの青年』(1937 年) (*Zbojnícka mladosť*［Outlaw Youth］)，旅行記『アフリカ・ノート』(1936 年) (*Africký zápisník*［African Notes］) などの著者として知っているだけでない。長い年月を経てその「私生活」が明らかになった人物であることも知られている。1939 年から 1945 年までのスロバキア共和国の時代[訳注1]，ミストリーク＝オンドレヨフは，ユダヤ人から資産を強制的に接収しその所有権を［スロバキア人に］移転する政策（「アーリア化 (Aryanization［Arisierung, Entjudung der Wirtschaft］)」）に加担したことでも，その名が知られている。ミストリーク＝オンドレヨフは，ブラチスラバの大手書店をはじめとしてステイネル家が経営する書籍楽譜販売店［以下，「ステイネル書店」と言う。］をアーリア化した。このことは，随分以前から歴史書(1) だけでなく，スロバキアの新聞や雑誌でも取り上げられている(2)。

［訳注 1］フリンカ・スロバキア国民党が政権を掌握し，ドイツの「衛星国」として反ユダヤ措置を実行した時代。1942 年には旧ポーランドの収容所にユダヤ人５万 8000 人が強制移送され，ホロコーストは「頂点（クライマックス）」（イヴァン・カメネツ）に達した。

(1) TRANČÍK, Martin. *Medzi starým a novým. História kníhkupeckej rodiny Steinerovcov v Bratislave*. (Between old and new. A history of the Steiner bookselling family of Bratislava.) Bratislava: Vydavateľstvo PT, 1997. ISBN 8096702696.

(2) GLEVICKÁ, Marcela. “Dedička antikvariátu Steinerovcov prežila vojnu vďaka pestúnke, keď arizátor Ondrejov poslal jej rodičov do Osvienčimu”. (“The heiress of the Steiner Bookshop survived the war thanks to a foster-mother, when Aryanizer Ondrejov sent her parents to Auschwitz”.) In Denník N［online］. Accessible on-line: https://dennikn.sk/531876/ded-icka-antikvariatu-steinerovcov-prezila-vojnu-vdaka-pestunke-ked-arizator-ondrejov-pos-lal-jej-rodicov-do-osviencimu/［cit 2019-01-10］; SIVÝ, Rudolf. “V detstve ju Tiso hladkal po vlasoch. Matku roztrhali psy v Osvienčime.” (“In childhood Tiso stroked her hair, her mother was torn to

ミストリーク＝オンドレヨフは，アーリア化の担い手 (Aryanizers［Arisator］)［ユダヤ人企業の経営を譲渡された非ユダヤ人］としては，ある意味でスロバキアで最も注目された人物の 1 人だと言える。この人物は，1942 年に大手書店のアーリア化が完了すると，元のオーナー（ステイネル家）との関係に言及した文書の中で，ステイネル家の人々をその書店で雇用する必要がなくなったと主張しているが，この文書そのものは必要ないどころかミストリーク＝オンドレヨフを評価する上でなかなかに役に立つ。その文書の中でミストリーク＝オンドレヨフは，ステイネル家の人々を強制移送してもステイネル書店には損害がないだけでなく，スロバキア国も損害を受けることはないと主張している(3)。しかし，この情報は，ミストリーク＝オンドレヨフによるアーリア化の全体像を言い当ててはいない。本研究は，この著名なスロバキアの作家がスロバキア共和国の時代にどのようにアーリア化したかを考察するとともに，ミストリーク＝オンドレヨフがその身をどのように処したかを包括的に概観することを目的とする。

スロバキアにおけるユダヤ人企業のアーリア化によって，ミストリーク＝オンドレヨフも利益を得たが，アーリア化そのものは比較的輻輳していて紆余曲折を経た。1939 年に始まるアーリア化は，政権党フリンカ・スロバキア国民党 (Hlinkova slovenská ľudová strana: HSĽS) の内部での保守派と急進派との政治闘争の中で 1940 年に具体化された。そしてアーリア化は 1941 年にクライマックスに達し，ルダーク政権 (Ľudák regime)［訳注2］が崩壊するまで緩やかに続いた。

アーリア化とその実施のあり方に関する議論は，すでに自治政府の時代に（1938 年 10 月 6 日～1939 年 3 月 14 日［訳注3］）始まっていたが，［1939 年 3 月 15 日に］スロバキアが独立すると，アーリア化はその準備段階に入り，ユダヤ人企業には［経営を統括し対外的に当該企業を代表するアーリア人の］一時的管理者や管財人が配置された［訳注4］。

pieces by dogs in Auschwitz”.) In Aktuality.sk［online］. Dostupné online: https://www.aktuality.sk/clanok/365047/v-detstve-ju-tiso-hladkal-po-vlasoch-matku-roztrha-li-psy-v-osviencime/［cit 2019-01-10］.

（3）TRANČÍK, ref 1, s. 208, NIŽŇANSKÝ, Eduard (eds.). *Holokaust na Slovensku 6. Deportácie v roku 1942. Dokumenty*. (The Holocaust in Slovakia 6. The deportations of 1942. Documents.) Bratislava: Nadácia Milana Šimečku, 2005, Dokument no. 321, p. 406.

［訳注 2］フリンカ・スロバキア国民党による一党独裁政権の別称。「保守派」は大統領ヨゼフ・ティソ (Jozef Tiso) が，またその一方で，「急進派」は首相ヴォイテフ・トゥカ (Vojtech Tuka) と副首相兼内務大臣アレクサンデル・マッハ (Alexander Mach) が代表する。訳注 5 参照。

［訳注 3］1938 年 10 月 6 日にフリンカ・スロバキア国民党はジリナで自治を宣言した。1939 年 3 月 14 日，スロバキア独立，1939 年 3 月 15 日，チェコスロバキアの「残りの部分」と蔑称されたボヘミアとモラビアの保護領化，これらによりチェコスロバキア共和国は崩壊した。

［訳注 4］管財人と一時的管理者はアーリア化した主として企業と住宅の管理を代行する。管財人と一時的管理者はいずれも，24 歳以上の善良なるスロバキア国民であり，管理に関する専門的知識を持つことが望ましいとされている。就任に際して中央経済局長（または同局が任命する者）の面前での宣誓が求められ，企業等の管理に当たっては公権力を体現する者として職務を遂行するとされ，任免権は中央経済局にある（以上，ユダヤ法第 223 条）。管財人と一時的管理者は，管理の過程で現金によって支出した経費と報酬を受けるが，その額は中央経済局が決定する（同第 225 条）。

管財人は，高い専門的知識を持って企業経営を監督し，経営で生じた瑕疵を是正する。そのために，帳簿や会計記録を精査する権限を持つ（同第 226 条）。企業からの金銭は受けてはならず，中央経済局が報酬を支給することになっている。

これに対して，対外的には事業主の代理人である一時的管理者には，中央経済局の指揮監督の下で企業や住宅の所有者のために適切な管理と運営が委ねられている（同第 227 条）。一時的管理者

1940 年 4 月，スロバキア共和国議会は，経済省の官僚が作成した「第一次アーリア化法」を可決した。これによって，アーリア化は初めて体系的に規定され[4]，大統領ヨゼフ・ティソ (Jozef Tiso) などの保守派が率いるフリンカ・スロバキア国民党の路線に沿って進められた。アーリア化の対象となるのは，従業員 20 人未満のユダヤ人企業に限られた。第一次アーリア化法に基づいて，県庁と経済省は，ユダヤ人企業の清算とかアーリア化(新たな所有者となる非ユダヤ人への売却)の決定権限を持つようになった。アーリア化の担い手には，当該企業（またはその株式の半数以上）をアーリア化する資格要件の充足，ならびにアーリア化するユダヤ人資産を購入するに足りる資金の保有，この 2 つが必要とされた。フリンカ・スロバキア国民党保守派が経済のことに慎重であったためであろうか，第一次アーリア化法では，アーリア化の対象となったユダヤ人企業の所有者がその担い手を指名，提案することができると定められている。これを当時は「自主的アーリア化 (voluntary Aryanization)」と称し，企業の元オーナーは，自社株の半数以上を所有することになるアーリア化の担い手を指名することができた[5]。ただし，すべては経済省による承認を必要とした。認可されなければ，政権がオーナーに対してアーリア化に関与させることはなく，そうなれば政府決定によって収入源を奪われるのを座して見るほかにすべはなくなってしまう。この第一次アーリア化法の施行日は 1940 年 6 月 1 日である[6]。

ブラチスラバ市ヴェントゥルスカ通り 22 番地 (Ventrúska St. 22) に店舗を構えジグムント（またはシグムント）・ステイネル (Zigmund (or Sigmund) Steiner) が経営する書店を，作家ミストリーク＝オンドレヨフがアーリア化したという物語は，この頃に始まる。この書店はいったいどのような企業であったのだろうか。

1940 年ころ，ジグムント・ステイネルが経営する書店は，スロバキアでも最大手の 1 つであった。当時，この書店はすでに 100 年の歴史を刻んでいた。1848 年にユダヤ人商人のジグムント・ステイネルと結婚した未亡人ヨゼフィーナ・ケーニヒ (Jozefina König) は，その前年に開店したばかりの小さな古本屋を買い取った。ジグムント・ステイネルはこれを拡大し，1867 年には長男ヘルマン (Hermann) が事業に加わるようになった。ライプツィヒで書籍販売の修行をしていたヘルマンは，1878 年に父親から事業を全面的に

は企業等から俸給を受けるが（同第 218 条第 5 項)，管理過程で義務を怠ったために生じた損失は，負わなければならない（同第 228 条)。そして，一時的管理者は管理下にある事業経営で得た総売上高から公租公課，賦課金，社会保険料等を支払い，残余の純収入を事業主の預託口座に入金する（同第 228 条)。ユダヤ法については，脚注 15 を参照。

(4) Zákon (Act) no. 113/1940 Sl. z. o židovských podnikoch a Židoch zamestnaných v podnikoch. (On Jewish businesses and Jews employed in businesses.) *Slovenský zákonník* (Slovak Statute Book), year 1940, pp. 163–172; HALLON, Ľudovít. Arizácia na Slovensku 1939–1945. In *Acta Oeconomica Pragensia*, 2007, vol. 15, no. 7, p. 151. ISSN 0572-3043.

(5) 第一次アーリア化法については以下を参照。
HLAVINKA, Ján. Sklamanie „umiernených“ ľudákov: Prvý arizačný zákon a jeho výsledky. (The disappointment of the “moderate” Ľudáks: The First Aryanization Act and its results.) In *Historik a dejiny: v česko-slovenskom storočí osudových dátumov. Jubileum Ivana Kamenca*. (Historian and history: in the Czecho-slovak century of fateful dates. The jubilee of Ivan Kamenec.) Bratislava: Historický ústav SAV vo Vede, vydavateľstve SAV, (Historical Institute of the Slovak Academy of Sciences in Veda, publishing house of the Slovak Academy of Sciences,) 2018, pp. 87–102. ISBN 9788022416535.

(6) KAMENEC, Ivan. *Po stopách tragédie*. (On the trail of tragedy.) Bratislava: Archa, 1991, p. 67, ISBN 8071150150.

引き継いだ。店名にはそれまでの「ジグムント・ステイネル」を使用した。ブラチスラバ市ヴェントゥルスカ通りに店舗を移したのは，このヘルマンである。ヘルマンは1880年に妻セルマ (Selma) と共同でこの通りに建つ店舗を購入した(7)。ヘルマン・ステイネル夫妻から書店を引き継だのは２人の息子（マックス・ステイネル (Max Steiner) とヤクブ・ヨゼフ・ステイネル (Jakub Jozef Steiner) ）である。1930年１月１日には，この２人の共同経営による「ジグムント・ステイネル社」［以下,「ステイネル書店」と言う。］が誕生した(8)。年間売上高（1938年）は41万1797チェコスロバキア・コルナである(9)。同業他社と比べてみても，アーリア化直前のブラチスラバではステイネル兄弟の書店は最大手に数えられていた。

第一次アーリア化法が成立すると，ステイネル書店のオーナー（マックス・ステイネルとヤクブ・ヨゼフ・ステイネル）は，数百人の他のユダヤ人事業主と同様に，２つの岐路に立たされた。第一の道は，ルダーク政権 (Ľudák regime)［訳注5］に事業の清算か［みずからは経営に関与しない］アーリア化か，いずれかの決定を委ねることであり，第二の道は，自ら「自主的アーリア化」の道を選択し，株式の半分以上とそれに見合う利益をアーリア化の担い手に対して譲渡する提案を行うことである。第二の道を選べば，少なくとも部分的であっても企業収入を維持する機会が得られる。これは理に適(かな)った決断ではあったが，決して「自主的」と言えるような選択ではなかった。

資料によれば，1940年の夏，ステイネル兄弟（マックスとヤクブ・ヨゼフ）は，自社の部分的アーリア化について「芸術家肌の作家 (artistic writer)」と文書に記載されているヨゼフ・ヤーン・チャーコス (Jozef Ján Csákos) という人物と合意した。そして，1940年８月，当時の慣行に従ってステイネル兄弟とチャーコスは契約を締結した。この契約に基づいて，チャーコスはジグムント・ステイネル社に第三の共同経営者（「アーリア人パートナー」)［ステイネル兄弟を入れて三番目の共同経営者］として入り，その後，チャーコスはこの書店の資産と利益の60％を持分として取得することになった。社名は「ジグムント・ステイネルとその後継者 J. チャーコスによる共同企業，書籍楽譜販売業 (Zigmund Steiner, successor J. Csákos and co., seller of books and music)」に変更された(10)。ステイネル書店の共同経営者（ステイネル兄弟とチャーコス）との間で取り交わされる契約内容が，市の公証人役場に届けられたが，承認を得るために公証人役場はこれをさらに上位の機関に送達する必要があった。関係文書がブラチスラバ県庁に提出され，経済省が承認すれば，契約通りにアーリア化決定証書が交付され，ステイネル兄弟が所有する企業はヨゼフ・ヤーン・チャーコスがアーリア化するはずであった。

ところがステイネル家との合意をどこ吹く風と受け流し，この書店をアーリア化しよう

(7) Trančík, ref 1, p. 71.

(8) United States Holocaust Memorial Museum Archives (hereinafter USHMMA), Record Group 57.001 M Slovak Documents Related to the Holocaust (hereinafter RG-57001M), Reel 972, File 219 (hereinafter 972/219).

(9) USHMMA, RG-57.001M, 972/212, Oznámenie Daňovej správy Bratislava-mesto (Declaration to the Bratislava city tax office). no. 23.531/1940 from 15 Oct. 1940.

［訳注5］Ľudák は仲間，同志などの意味があるが，この文脈では「フリンカ・スロバキア国民党」の賛同者を意味する。政権担当者を「ルダーク」と言うこともある。

(10) USHMMA, RG-57. 001M, 972/210–211, Spoločenská zmluva (Company agreement) from 15 Aug. 1940.

とした者がほかにも何人かはいた。当局による強制的アーリア化の命令が欲しい人たちである。この申請者の中にカロル・マウクシュ (Karol Maukš) という人物がいて，申請書に職業は技術ライター，元郵便局職員でスロバキア国籍と記入していた(11)。オーストリアのグラーツ，そして後にブラチスラバの様々な商社で会計係と事務員をしていたことがあるエミール・ナタリ (Emil Natali) も申請者の 1 人である。この人物は書籍販売に従事した経験がありドイツ国籍であることを申告した(12)。市の公証人役場は，すべての申請者の身元を確認する作業を開始した。公証人役場とブラチスラバ県庁とのやり取りから，政策決定者の側では，アーリア化の担い手にエミール・ナタリを選考してステイネル書店の強制的アーリア化を進めようとしたことが窺われる。

その一方で，ルダーク政権の反ユダヤ政策は，全体として第一次アーリア化法（特に「自主的アーリア化」）に基づくアーリア化の進行を阻害するものであった。1940 年 7 月末にザルツブルクで行われたドイツとスロバキアとの最高レベルの会談によって[訳注6]，スロバキアの国内政治の舞台ではフリンカ・スロバキア国民党急進派が勢力を伸長し，1940 年 9 月になるとアーリア化を含む反ユダヤ政策の構想には変化が見られるようになったのである。ステイネルとチャーコスとの間で協議が整ってからわずかの数日しか経っていない 1940 年 9 月 3 日に，スロバキア共和国議会は，憲法を改正してユダヤ人をスロバキアの経済と社会の場から排除し，ユダヤ人資産のアーリア化を実施するための政令を制定する権限を政府に付与した(13)。この授権により，フリンカ・スロバキア国民党急進派の指導者ヴォイテフ・トゥカ (Vojtech Tuka) を首相とする内閣は，反ユダヤ政策の方向性を決定づける存在になった。トゥカ一派がマスコミを使って第一次アーリア化法に反対していたことは，知れわたっていた。首相トゥカなどの急進派には，企業のアーリア化をいっそう迅速かつ徹底的に進めるための独自の腹案があった。1940 年 9 月 11 日，経済省が長期に亘り第一次アーリア化法に基づいて進めてきたアーリア化は，ついに中止に追い込まれた。その数日後，政令［1940 年政令第 222 号（1940 年 9 月 16 日制定）］に基づいて政府は中央経済局 (Ústredný hospodársky úrad: ÚHÚ) を設置したからである。同局は，ユダヤ人企業のアーリア化を職務権限とする部局として，後になると農業用資産を除く一切の資産のアーリア化を一手に所管することになった(14)[訳注7]。

(11) USHMMA, RG-57.001M, 972/264, Žiadosť Karola Maukša o nariadenie arizácie žid. podniku. (Application from Karol Maukš to Aryanize a Jewish business.)

(12) USHMMA, RG-57.001M, 972/256, 259, Žiadosť Emila Nataliho o nariadenie arizácie žid. podniku, Životopis E. Nataliho, (Application from Emil Natali to Aryanize a Jewish business. Curriculum vitae of E. Natali.)

［訳注 6］1940 年 7 月 28 日に開催された独ス協議。ドイツ側の主な出席者は，総統（フューラー）ヒトラー，外務大臣ヨアヒム・フォン・リッベントロップ (Joachim von Ribbentrop)，スロバキア駐在公使（予定）マンフレート・フォン・キリンガー (Manfred von Killinger)。スロバキア側からは，大統領ヨゼフ・ティソ，首相ヴォイテフ・トゥカ，後の副首相兼内務大臣アレクサンデル・マッハなどが出席した。ドイツ側は保護条約の破棄をも辞さぬ勢いで会談に臨み，スロバキア側との間で以下の 4 項目が合意された。(1)デュルチャンスキーの更迭，(2)急進派による政権交代，(3)顧問官の受入，(4)総統制の導入。

(13) Ústavný zákon (Constitutional Statute) no. 210/1940 Sl. z., ktorým sa vláda splnomocňuje, aby činila opatrenia vo veciach arizácie. (By which the government is empowered to enact measures concerning Aryanization). *Slovenský zákonník*, year 1940, p. 343.

(14) より詳しくは以下を参照。HLAVINKA, Ján. Vznik Ústredného hospodárskeho úradu a určenie jeho kompetencií do leta 1942. (The Central Economic

様々なアーリア化の申請業務のほかにも，ステイネル兄弟とチャーコスとの間で締結されたような契約の処理案件が殺到して溢れかえっていた地方の県庁事務所は，徐々にその業務全体を新設の中央経済局に引き継がなければならなくなった。まさにそのような状況の中で1940年12月中旬に，ステイネル書店に関するアーリア化の関連文書が中央経済局に届いたのである。その一方で，1940年11月，政府は，歴史学では「第二次アーリア化法」と言われる政令を制定した。これが発効すると，「ユダヤ人企業」のアーリア化のあり方は抜本的に様変わりした(15)。もはや「自主的アーリア化」はできなくなったのである。アーリア化は，特定の「ユダヤ人企業」を誰がどのような条件で取得するかについての独占的な決定権限を持つ中央経済局によって最終的に定められ，それによってはじめて効力が生ずるとされた。中央経済局長に就任したアウグスティーン・モラーヴェク (Augustín Morávek) は，中央経済局が設置されるまではアーリア化に関する部局で首相トゥカの顧問を務めていた人物である(16)。

事務を引き継いだ中央経済局は，新部局の設置，人員配置，アーリア化のための新たな決め事の策定など，新設部局の初期に見られる諸手続きに追われて，比較的長い間申請書類に手を付けられる状態にはなかった。その一方で，ステイネル書店に対するアーリア化の希望者は増え続けた。1941年2月にアーリア化を申請したカロル・テレベッシー (Karol Terebessy) は，ビジネスの基礎を学んではいたが，高等商業学校を卒業しておらず，申請時には適切な雇用先がなかったが，国籍をハンガリーと書いた申告書を提出した。カロル・マウクシュ (Karol Maukš) とエミール・ナタリ (Emil Natali) は資産なしと申告したが，カロル・テレベッシーのほうは3万スロバキア・コルナの資金があると申告した(17)。1941年2月，中央経済局は，ブラチスラバ在住のドイツ人マリア・ローゼヴァッチ (Maria Rosewatsch) が提出した申請書を受理した。それには7万スロバキア・コルナの手持ち資金があり，高等商業学校を卒業したと記載されていた。マリア・ローゼヴァッチは，ドイツ人党 (Deutsche Partei)[訳注8] がアーリア化の担い手として推薦していた人物であ

Office and the setting of its powers up to summer 1942.). In SOKOLOVIČ, Peter (eds.). *Od Salzburgu do vypuknutia Povstania: Slovenská republika 1939–1945 očami mladých historikov VIII*. (From Salzburg to the outbreak of the Uprising: The Slovak Republic 1939–1945 through the eyes of young historians VIII.) Bratislava: Ústav pamäti národa, 2009, pp. 63–92. ISBN 9788089335213; FIAMOVÁ, Martina. *"Slovenská zem patrí do slovenských rúk". Arizácia pozemkového vlastníctva židovského obyvateľstva na Slovensku v rokoch 1939–1945*. ("Slovak land belongs in Slovak hands". The Aryanization of land ownership in Slovakia, 1939–1945). Bratislava: Veda: Historický ústav SAV, 2015. ISBN 9788022414463.

［訳注7］農地のアーリア化を所管したのは国土庁。森林は経済省が所管した。

（15）Nariadenie vlády s mocou zákona (Government decree with force of law) no. 303/1940 Sl. z. o židovských podnikoch. (On Jewish businesses). *Slovenský zákonník*, year 1940, pp. 472–476. この1940年政令第303号の条文は，後に「ユダヤ法 (Židovský kódex)」と言われるユダヤ人の法的地位に関する1941年政令第198号 (198/1941 Sl. z. o právnom postavení Židov, (On the legal position of Jews)) の中に取り込まれた。［この日本語版は，『経済論集』（北海学園大学）第73巻第2号，2025年11月を参照。］

（16）1940年1月にトゥカはアーリア化に介入するために首相府経済室 (Hospodárska úradovňa predsedníctva vlády) を設置し，モラーヴェクをその室長に据えた。For more details see: HLAVINKA, ref. 14.

（17）USHMMA, RG-57.001M, 972/272, Žiadosť o vymenovanie za dočasného správcu. (Request for appointment of a temporary administrator.).

［訳注8］カルパチア地方を中心に住んでいたドイツ人マイノリティの国家社会主義（ナチョナルゾツィアリスムス）政党。1938年，ブラチスラバで結党（党首はフランツ・カルマシン (Franz Karmasin)）。

る[18]。作家ミストリーク＝オンドレヨフも，1941 年 6 月にステイネル書店のアーリア化を申請した。申請書には，手持資金はないが，５万スロバキア・コルナの融資が保証されているとあった。学歴上は公証人の資格を有し，後日公証人資格証明書を提出する旨が申請書に記載されていた[19]。最後の申請書が提出されたのは 1941 年 8 月である。申請したのはオルガ・ルカーチョヴァ (Oľga Lukáčová) という名のスロバキア国籍の事務員であり，高等商業学校を卒業し，4000 スロバキア・クローネの資金があると記載した申請書を提出した[20]。

申請が一段落すると，中央経済局では通常の行政手続きが始まる。最初のステップは，ルダーク政権で権力を掌握している者がそれぞれの申請者についてどのような見解を持っているかを確認することである。中央経済局は，フリンカ・スロバキア国民党本部，フリンカ警固隊［フリンカ・スロバキア国民党の準軍事組織］の当該地区司令部，ドイツ民族局 (State Secretariat for the Affairs of the German National Group) に対して，書面で各申請者に関する意見を求める。それと同時に，警察署が申請者の身辺を調査する。各部局からの報告と中央経済局長の決定に基づいて，中央経済局は，企業に配置する一時的管理者を任命する。一時的管理者は，アーリア化された企業のオーナーにはならないが，その企業を代表し一時的管理者の名において措置する法的権限があり，元のオーナーから月額給与を受け取る。この配置を原則にしたのは，企業を最終的に譲渡する前に，元のオーナーに負担させて経営のノウハウを習得させるためである。中央経済局長モラーヴェクは，就労機会を確保するために一時的管理者を任命することが必要だとして，一時的管理者の配置を正当化していた[21]。ただし，現実のアーリア化では一時的管理者に任命されておきながら，次のステップではその者が最終的にアーリア化の担い手として選ばれないということは，むしろ例外的である。

ステイネル書店のアーリア化の場合には，ミストリーク＝オンドレヨフとオルガ・ルカーチョヴァが申請する前に，すでに［ドイツ人の］マリア・ローゼヴァッチが一時的管理者に選ばれており，中央経済局長は，ローゼヴァッチの月給を 2500 スロバキア・コルナに決定した。これは，当時の政府高官の給与と同額である[22]。

このケースではアーリア化の申請者の中にスロバキア国籍とドイツ国籍の者がいたためにアーリア化の担い手を決定する問題の協議の場は，中央経済局から，フリンカ・スロバキア国民党とドイツ人党の代表からなる「合同委員会 (Mixed Commission)」へと移された。この委員会には，スロバキア側委員としてフリンカ・スロバキア国民党本部のアンドレイ・ゲルムシュカ (Andrej Germuška) とヨゼフ・コソリーン (Jozef Kosorín) が，また

(18) USHMMA, RG-57.001M, 972/276‒278, Dotazník o osobe a pomeroch uchádzača. (Questionnaire about the person and situation of the applicant.)

(19) USHMMA, RG-57. 001M, 972/296, Dotazník o osobe a pomeroch uchádzača.

(20) USHMMA, RG-57.001M, 972/307‒308, Dotazník o osobe a pomeroch uchádzača.

(21) Slovenský národný archív (Slovak National Archives) (hereinafter SNA), archívny fond (archive fund) (hereinafter f.) Povereníctvo priemyslu a obchodu-VII. odbor, (Commission for Industry and Trade - VII. Department,) carton number 100 (hereinafter c.), VII-1224 Dávid Grauberd, výroba dreveného uhlia, Humenné. Vyjadrenie predsedu ÚHÚ. (Dávid Grauberd, production of charcoal, Humanné. Statement by the chairman of the Central Economic Office (CEO).)

(22) USHMMA, RG-57.001M, 972/391. Revízna správa Slovenskej revíznej a dôverníckej spoločnosti (Report on an audit by the Slovak Auditing and Trustee Society) from 6 Sept. 1943.

ドイツ側委員としてはドイツ人党経済本部長オイゲン・ライジンガー (Eugen Reisinger) とドイツ人党経済本部アーリア化部長カール・ブロウデック (Karl Bloudek)（後にカール・ブロンデル (Karl Blondel) と交代）が出席した[(23)]。

1941 年 9 月 5 日に委員会が下した決定は，次のとおりである。

> ミストリーク＝オンドレヨフがアーリア化の担い手としてふさわしいかどうかを精査し，この者が，まだ［他の企業を］アーリア化していない場合には当該企業をその者に譲渡する[(24)]。

その数日後（1941 年 9 月 8 日），各種分野の「ユダヤ人企業」のアーリア化と清算を担当する中央経済局第 3 部の職員は，次の文書を作成し署名した。

> ブラチスラバ在住の作家ルドヴィート・ミストリーク（オンドレヨフ）は，第 3 部が所管する企業をこれまでにアーリア化していないことを認める[(25)]。

企業のアーリア化に係る最終決定は，中央経済局長アウグスティーン・モラーヴェクがこれを行うことになった。

中央経済局長モラーヴェクは，ステイネル書店の譲渡先を，すでに一時的管理者として選考されていたローゼヴァッチにではなく，作家ミストリーク＝オンドレヨフに決めた。モラーヴェクが「ミストリーク＝オンドレヨフに対して企業（B 型）を完全に譲渡する旨の決定」に署名したのは，1941 年 9 月 9 日のことである[(26)]。

申請者の顔ぶれからも分かるように，ミストリーク＝オンドレヨフは，申請者としての資格が抜きん出ていたわけではなく，申請者の中で一番の資産家でもなかった。それどころか，申請したころには多額の借金を抱えていた。トゥルチアンスキー・スヴェティ・マルティン (Turčiansky svätý Martin)［現在のマルティン市 (Martin)，ブラチスラバの北東約 200㌔］からブラチスラバに引っ越してきたばかりで，生活が苦しいのに酒場で酒を飲み，いつもお金に困っていた[(27)]。中央経済局長が応募者の中からミストリーク＝オンドレヨフのような人物をアーリア化の担い手に選考したことについては，合同委員会（上記）によるごく簡単な記録しか残っておらず，その理由は書かれていない。合同委員会が決定したというただ 1 つの理由だけで，中央経済局長モラーヴェクはアーリア化の決定文書に署名したのであろうか。

ステイネル書店が譲渡されるときに決定的な影響力を果たしたのは，ミストリーク＝オンドレヨフの妻オルガ・ハルマノヴァ (Oľga Harmanová) であったという説がある[(28)]。ジャーナリストのペーテル・ゲッティング

(23) HLAVINKA, Ján. „Kapitál má slúžiť národu...“. Korupcia v arizácii podnikového majetku na Slovensku. (“Capital has to serve the nation...”. Corruption in the Aryanization of business property in Slovakia.) In ŠOLTÉS, Peter - VÖRÖS, Lászlo (eds.). *Korupcia*. (Corruption.) Bratislava: Historický ústav SAV; Veda, 2015, pp. 374–421.

(24) USHMMA, RG-57.001M, 972/430, Záznam „Židovský podnik“ (The record “Jewish business”) from 5 Sept. 1941.

(25) USHMMA, RG-57.001M, 972/431, Úradný záznam (Official record) from 8 Sept. 1941.

(26) USHMMA, RG-57.001M, 972/411–414, Rozhodnutie o prevode židovského podniku (Decision on transfer of a Jewish business), no. 37182/III/7/1941.

(27) MAŤOVČÍK, Augustín. *Číri a čistý rozprávač Ľudo Ondrejov. Život a dielo v dokumentoch*. (The clear and pure story-teller Ľudo Ondrejov. His life and work in documents.) Martin: Vydavateľstvo Osveta, 1986, pp. 159–161.

(28) オルガ・ハルマノヴァ（1907 年～1950 年）は，

(Peter Getting) は，オルガ・ハルマノヴァが中央経済局の高官であったヴィクトル・ハルマン (Viktor Harman) の きょうだい であることを突き止めた。ステイネル書店がミストリーク＝オンドレヨフに譲り渡された理由は，それではないかとゲッティングは見ている(29)。ヴィクトル・ハルマン［オルガ・ハルマノヴァの きょうだい］は中央経済局の設置から 1942 年半ばまで同局法務部長の職にあり，中央経済局の上層部で枢要な地位にいた。ヴィクトル・ハルマンは中央経済局の設置に一役を果たしただけでなく，局長のモラーヴェクと一緒になって同局の業務がよって立つアーリア化関連法案の起草にも携わり，アーリア化法の解説書には共同編集者の 1 人としてその名を連ねている(30)。ユダヤ人問題に関するドイツ人顧問官ディーター・ヴィスリツェニー (Dieter Wisliceny)[訳注9] によれば，ヴィクトル・ハルマンは中央経済局の中で特別に影響力が強い重要人物であり，局長のモラーヴェクは全幅の信頼を寄せていた(31)。このときのアーリア化のケースは，庇護(みひいき) (protection) による可能性があり，中央経済局が縁故者のためにアーリア化を進めた事例の第 1 号でなかったのではあるまいか(32)。

オルガ・ハルマノヴァが事件全体に与えた影響については，すでに 1986 年に明らかになっている。アウグスティーン・マトフチーク (Augustín Maťovčík) は，ミストリーク＝オンドレヨフの伝記の中で，「彼［ミストリーク＝オンドレヨフ］は妻［オルガ・ハルマノヴァ］と相談して，有名なステイネル古書店(ママ)の経営を引き受けることにした。」(33)

物語の執筆に生涯を捧げ，1928 年から 1941 年まではブラチスラバで小学校の教員をしていた。処女作（『かわいいツピちゃん』 (*Cupinôžka*)）の刊行年は 1941 年である［スロバキア語の -nôžka は，ロシア語の -очка に近く愛称としての機能を果たす ── 訳者］。MAŤOVČÍK, Augustín *et al.* (eds.). *Slovník slovenských spisovateľov 20. storočia.* (A dictionary of Slovak writers of the 20th century.) Bratislava: Vydavateľstvo spolku slovenských spisovateľov (Publishing house of the Slovak Writers' Association); Martin: Slovenská národná knižnica, (Slovak National Library,) 2001, p. 138. ISBN 808061122X.

(29) GETTING, Peter. *"Temná minulosť slovenského spisovateľa: Poslal židov do koncentrákov kvôli majetkom?"* ("The dark past of a Slovak writer: Did he send Jews to concentration camps because of property?") In *Plus 7 dní*. (*Plus 7 days*.) Accessible online: https://plus7dni.pluska.sk/historia/temna-minulost-slovenskeho-spisovatela-poslal-zidov-koncentrakov-kvoli-majetkom.［これの公開日は 2018 年 6 月 26 日（2018 年 7 月 21 日改訂）。ミストリーク＝オンドレヨフ，その妻オルガ・ハルマノヴァの写真とともに，脚注 30 に掲げる著書の表紙頁（写真）が掲載されている（2025 年 9 月 30 日アクセス）。］

(30) HAMMER, Oskar - HARMAN, Viktor - ZIMAN, Ladislav (eds.). *Komentovaná sbierka najnovších právnych predpisov upravujúcich arizáciu a právne postavenie Židov na Slovensku.* (Collection of the latest legal norms regulating Aryanization and the legal position of Jews in Slovakia with comments.) Second edition. Bratislava: C.F. Wigand, 1941（初版は 1940 年刊行）.

［訳注 9］ディーター・ヴィスリツェニー（1912 年～1948 年）。ザルツブルク会談の後，スロバキアにユダヤ人問題専門の顧問官として着任。スロバキアのホロコーストを主導。戦後における証言は，アイヒマン裁判の有力証拠として採用。スロバキアの国民法廷で死刑判決。

(31) NIŽŇANSKÝ, Eduard. Arizácie a problémy majetku Židov na Slovensku v hláseniach predstaviteľov nacistického Nemecka (Aryanization and the problems of Jewish property in Slovakia in the statements of representatives of Nazi Germany) (1939-1943). In NIŽŇANSKÝ, Eduard - HLAVINKA, Ján (eds.) *Arizácie*. (Aryanization.) Bratislava: FiF UK; Dokumentačné stredisko holokaustu, 2010, Dokument no. 8, Správa D. Wislicenyho z 18 7. 1941 o A. Morávkovi a Ústrednom hospodárskom úrade, (Report of D. Wisliceny from 18 July 1941 on A. Morávek and the Central Economic Office,) p. 174.

(32) SNA, f. 209, 209-927-1, Zápisnica (Record) from 15 June 1942. On the various forms of corruption in the decision-making of the Central Economic Office, see HLAVINKA, ref. 23.

(33) MAŤOVČÍK, ref. 27. p. 169.

と述べている。これは，事柄の本質上非常に不正確な言いぶりである。オルガ・ハルマノヴァが影響したことは，ミストリーク＝オンドレヨフと個人的な交友関係にあった作家イヴァン・クペツ (Ivan Kupec) も証言している。クペツの日記には，その妻［オルガ・ハルマノヴァ］がミストリーク＝オンドレヨフにアーリア化を無理強いしたとある(34)。

ここで，ステイネル書店のアーリア化を申請した時点ではミストリーク＝オンドレヨフが独身であったことに触れておかねばならない。オルガ・ハルマノヴァと結婚したのは，ステイネル書店の所有権を手にした2ヶ月後，1941年11月のことである(35)。とは言え，これは，オルガとその きょうだい（ヴィクトル）が中央経済局長アウグスティーン・モラーヴェクに影響を与えて，作家ミストリーク＝オンドレヨフのために決定させた可能性を排除するものではない。［ス独の］合同委員会に出席し，政権中枢の見解を代弁したフリンカ・スロバキア国民党の代表者がミストリーク＝オンドレヨフによるアーリア化の申請について意見を述べ［，アーリア化の担い手をミストリーク＝オンドレヨフに決定し］たが，それに対してモラーヴェクのほうはと言えば，その委員会の構成だけを決定したという可能性もある。

アウグスティーン・モラーヴェクがミストリーク＝オンドレヨフを支持すると決定したときの動機が何であろうとも，ミストリーク＝オンドレヨフが1941年9月にはアーリア化の担い手として，ブラチスラバのステイネル書店とその付帯事業の新たなオーナーの地位に着いたという事実には変わりがない。元のオーナーと合意してそうなったわけではない。

ところでステイネル書店のアーリア化は，ミストリーク＝オンドレヨフがアーリア化の担い手になった唯一の事例ではない。ステイネル書店のアーリア化がミストリーク＝オンドレヨフにとっての最初のアーリア化というわけでもない[訳注10]。このことはあまり知られていない。1941年7月8日，中央経済局長の決定により，ミストリーク＝オンドレヨフは，ブラチスラバにあるさらに大きな企業（ブラチスラバ市クロブチニツカ通り4番地 (Klobučnícka St. 4) で織物，ファッション，布製品(テキスタイル)の卸売業を営むベルナート・ケンツレル社）のオーナーになり利益の持分を取得した(36)。ベルナート･ケンツレル (Bernát Känzler) が所有していた企業［以下，「ケンツレル社」と言う。］をアーリア化したのは，ミストリーク＝オンドレヨフとシュテファン・ツェンクネル (Štefan Cenkner) である。中央経済局は，この企業のオーナー（ベルナート・ケンツレル）に対して，ミストリーク＝オンドレヨフとツェンクネルを共同経営者とする公益商社 (a public commercial company) を設立させる「部分的アーリア化」（C型）を命じた。株式の分割については，ミストリーク＝オンドレヨフとツェンクネルが各々35%ずつ保有し，元のオーナー（ベルナート・ケンツレル）の持ち分は30%とした(37)。しかし，

(34) Kupec, Ivan. *Denník*. (Diary.) Bratislava: Slovenský spisovateľ, (Slovak writer,) 1999, p. 33. ISBN 9788022010207.

(35) Maťovčík, Augustín. Život a dielo Ľuda Ondrejova v dátach (Pramene a dokumenty). (The life and work of Ľudo Ondrejov in dates (Sources and documents)). In Valentovič, Štefan (eds.). *Biografické štúdie 9*. Martin: Matica slovenská, Biografický ústav, 1980, p. 58. ISSN 1338-0354.

［訳注10］ステイネル書店のアーリア化申請のほうが4日早いが（1941年6月），以下に述べるケンツレル社のアーリア化は2ヶ月早く1941年7月8日に決定された。

(36) USHMMA, RG-57.001M, 876/1907, Rozhodnutie o zrušení prevodu 50% účasti (Decision on cancellation of transfer of a 50% share), II/B/-4579/5-44.

(37) USHMMA, RG-57.001M, 876/1918, 1921, Evi-

最終的には，アーリア化の担い手（2 人）の持ち分がそれぞれ 38%になり，ベルナート・ケンツレルは 24%のみを保有することになった[38]。アーリア化されたケンツレル社は，ステイネル兄弟の書店よりもはるかに規模が大きく，1938 年の年間売上高は 237 万 4000.5 スロバキア・コルナである[39]。

ケンツレル社の創業も 19 世紀である。ベルナート・ケンツレルの両親がホルニー・カメネツ［ブラチスラバの北東約 140キロ］で起業したことに始まる。父親が亡くなった後，ベルナート・ケンツレルの兄（モール・ケンツレル (Mór Känzler) ）は母親と一緒に店を切り盛りした。弟ベルナートは［ホルニー・カメネツの南西約 65キロの］ニトラで似たような店舗の見習いになり，その後，ウィーンに職を得た。ケンツレル兄弟は 2 人とも第一次世界大戦のときに召集され，前線で兵役に就いた。1918 年末に兄弟が除隊した後に，ブラチスラバに店舗を移し，1935 年に兄モールが死亡するまで 2 人の兄弟は一緒に働いた。

第一次アーリア化法が成立した後，ケンツレル社をアーリア化しようとする様々な人が申請書を提出した。アントン・チェー (Anton Cseh)，ヨハン・ハトヴァーニ (Johann Hatváni), ヘルミーナ・ベザーコヴァー (Hermína Bezáková), ヘルミーナ・ユスコヴァー (Hermína Jusková), そして上記のシュテファン・ツェンクネルの 5 人がブラチスラバ県庁にアーリア化を申請した。元のオーナー（ベルナート・ケンツレル）は，ブラチスラバ警察署長の妻ヘルミーナ・ユスコヴァーとの間で「自主的アーリア化」を行うことで合意した。これは，ステイネル兄弟がヤーン・ヤクブ・チャーコスと合意したのと同じ方式である[40]。しかし，このときも，元のオーナーの努力は水泡に帰した。業界が違うと言えばそれまでだが，ミストリーク＝オンドレヨフは，ステイネル書店をアーリア化するための申請を提出した 4 日後に，最後の 1 人としてケンツレル社のアーリア化を申請したからである。

ミストリーク＝オンドレヨフがケンツレルの経営する卸売業［ケンツレル社］をアーリア化するときに提出した申請書には，自己所有の資産に関して［ステイネル書店のときとは］別の数字を記入している。これは興味深い。申請した 4 日後には，借入金 5 万スロバキア・コルナのほかに，「その他の財務状況および権利」の欄には 10 万スロバキア・コルナあると申告し，その下には，「現在までに発行された文学作品（出版物）に関する著作権」と注記し[41]，それと同時にケンツレル社のアーリア化申請書には，「ユダヤ人による非合法の経済活動に関与したことがないことを証明できるか。」という質問に対して，「どのユダヤ人とも交渉したことはない。」と回答している[42]。

ミストリーク＝オンドレヨフは，実はケンツレル兄弟の卸売業をアーリア化するときも，抜きん出て資力があったとか，資格から見て最適だったということはない。ステイネル書店の場合と同様に，このときもミストリーク＝オンドレヨフが申請を行う前には，シュテファン・ツェンクネルなる人物が一時的管理者に任命されていたのである。

もう 1 つ重要なことがある。フリンカ・スロバキア国民党とドイツ人党の代表者からな

denčný hárok, Rozhodnutie ÚHÚ (Record sheet. Decision of the CEO), C3 from 8 July 1941.

(38) USHMMA, RG-57. 001M, 876/1986, Revízna správa (Report on audit), SRDS, p. 2.

(39) USHMMA, RG-57.001M, 876/1985, Revízna správa, SRDS,, p. 1.

(40) USHMMA, RG-57.001M, 876/2174, Oznámenie Mestského notárskeho úradu. (Notification by the City Notary’s Office.)

(41) USHMMA, RG-57.001M, 876/2053, Dotazník o osobe a pomeroch uchádzača.

(42) USHMMA, RG-57. 001M, 972/2057, Žiadosť o nariadenie prevodu podniku.

る合同委員会の決定（ミストリーク＝オンドレヨフが他の企業をアーリア化しない場合には，ステイネル書店とその付帯事業を譲渡させるものとするという決定）を中央経済局が遵守しなかったことは明らかである［傍点は訳者による］。ミストリーク＝オンドレヨフが 1941 年 7 月にケンツレル社の株式の半分以上をアーリア化していたにもかかわらず，［1941 年 9 月には］ステイネル書店をアーリア化したからである。ミストリーク＝オンドレヨフによるこのときのケンツレル社のアーリア化に関して言えば，中央経済局は，元のユダヤ人オーナー［ケンツレル］と 2 人の申請者［ミストリーク＝オンドレヨフとツェンクネル］の 3 者にケンツレル社の株式を分割所有させると決定している。この理由は皆目見当もつかない。シュテファン・ツェンクネルとミストリーク＝オンドレヨフの 2 人には，資格がなかったが，この大規模卸売企業が急転直下衰退してしまうことは避けたいと考えたことは大いにありうる。

アーリア化によって，元のオーナーは決まって深刻な影響を被った。業績が良ければ，わずかな株を保有したりアーリア化された企業の従業員になったりした。逆に業績が悪ければ，即座に解雇され失業させられた。ルダーク政権は，元のオーナーに資産を持たせたり雇用し続けたりすることを「必要悪」として認めた。企業資産と雇用の維持は，中央経済局の決定による。

ミストリーク＝オンドレヨフが新しいオーナーになった後のステイネル書店の消息を伝える情報で，残っているものは比較的少ない。ステイネル家のある人物は次のように述べている。

> アーリア化の我らが担い手ミストリークは，自分のことを知性的であるが，反ユダヤ主義者ではないと言っていた。彼は大酒飲みだった。月に 1 回，時には 2 回店に顔を出して，儲（もう）けを懐に帰っていった。しかし，店の経営はステイネル家の人々が行った。私の父，そして 3 人の叔父が店で働いていた。ステイネル家からは 4 人が雇用されていたことになる。他にもユダヤ人従業員がいた。始めのころは，ミストリークは全員を会社に残した(43)。

ステイネル書店とは別にアーリア化したもう一方の企業（公益商社ルド・ミストリーク商会）(44)［旧ケンツレル社］で，ミストリーク＝オンドレヨフがどのように振る舞ったかについては，さらに情報が少ない。ベルナート・ケンツレルが数ヶ月間そこで働いていたことだけは分かっている。しかし，1941 年秋には，アーリア化の担い手ミストリーク＝オンドレヨフと Š. チェンコヴァー（ママ）［訳注 11］(Š. Cenková) の 2 人が，ベルナート・ケンツレルを会社から追い出す動きを見せた。1941 年 11 月 11 日，2 人の「アーリア人共同経営者」（ミストリーク＝オンドレヨフと Š. ツェンクネル (Š. Cenkner)）は，中央経済局に申請書を提出し，次のようにすると述べた。

> ユダヤ人共同経営者［ベルナート・ケンツレル］の株式（24%）を 12% ずつに分割して，署名した 2 人のアーリア人共同経営者がそれぞれ所有することにする。ユダヤ人共同経営者ベルナート・ケンツレルは，会社の経営には不要で，署名した共同経営者はこの者がいなくても事業を完遂できる(45)。

---

(43) TRANČÍK, ref 1, p. 204.
(44) 公益商社 (public commercial company) のことを “CE-KA” と書いている文書もある。
［訳注 11］ここに，Š. チェンコヴァーは Š. ツェンクネルの誤記ではないかと思われる。
(45) USHMMA, RG-57.001M, 876/2013, Letter from 11 Nov. 1941.

この文書の裏面には，中央経済局職員のメモがあり，ミストリーク＝オンドレヨフは，1941 年 11 月 25 日にこの件について中央経済局に直談判に来た旨の記載が見られる(46)。それから 1 ヶ月も経たない 1941 年 12 月 20 日，2 人の共同経営者は，中央経済局に書面でケンツレルの持分を譲り受ける旨を通知した(47)。法令に照らしてみると，これは違法である。資産持分の割当は，中央経済局の専決事項と定められているからである。その後，中央経済局は，2 人のアーリア化の担い手が申し出た要望を承認し，1942 年 3 月，公式にベルナート・ケンツレルからその持分全部を剥奪し，ミストリーク＝オンドレヨフとツェンクネルに分け与えた。これで 2 人の持ち分は，1942 年 3 月 15 日以降それぞれ 50％ずつになった(48)。

こうして，1942 年 3 月中旬，ミストリーク＝オンドレヨフは，[ツェンクネルとともに] ルド・ミストリーク商会という社名で布製品（テキスタイル）の卸売業を営むブラチスラバの大手企業［旧ツェンクネル社］の共同所有者となり，かつミストリーク書店［旧ステイネル書店］という名だたる書店の唯一のオーナーになった。要するに作家ミストリーク＝オンドレヨフは，何枚かの申請書を書くだけで，ブラチスラバでユダヤ人オーナーが代々築き上げてきた 2 つの優良企業を我が物としたのである。

スロバキアからのユダヤ人の強制移送は，1942 年 3 月末に始まった。フリンカ・スロバキア国民党政権は，強制移送を利用して，アーリア化政策によって資産を剥奪され，社会に依存して生活せざるを得ないユダヤ人を追放した。移送列車はほぼ毎日スロバキアを出発し，ユダヤ人をアウシュヴィッツのナチス強制/絶滅収容所とか「ラインハルト作戦」が遂行されていたポーランド総督府ルブリン県へと運搬した。強制移送の際，フリンカ警固隊，義勇親衛隊［ドイツ人党の準軍事組織］，憲兵隊などの隊員は，ブラチスラバをはじめとして各地で，最初は若いユダヤ人の男性と女性を暴力的に検挙し，それが済むと今度は家族ぐるみでユダヤ人を家畜運搬用の貨車に押し込めて移送した。強制移送された人たちの資産は，その後，市中で公開の競売にかけて売り払われた。

1942 年 6 月のユダヤ人の強制移送のとき，ミストリーク＝オンドレヨフは，ステイネル書店の元のオーナーとユダヤ人従業員を追放しようとして，当局に宛てて次のような意見書を送った。

> ブラチスラバ市ヴェントゥルスカ通り 22 番地に構える私の書店では，ユダヤ人，マックス・ステイネル，ヨゼフ・ステイネル，レギーナ・レーベンスフェルドヴァ，ジグムント・ステイネル，ヴィリアム・ステイネル (Max Steiner, Jozef Steiner, Regina Lebensfeldová, Žigmund Steiner, Viliam Steiner) が不要であることを申し述べる。上記のユダヤ人が逮捕，強制移送されても，私の書店にはまったく損害はないし，スロバキア国の経済にも損失を与えることはない。ヴィリアム・ファーブリ氏 (Viliam Fábry)（トゥルチアンスキー・スヴェティ・マルティン出身のアーリア人）を後任として確保したからである。なお，経営上マックス・ヴィメル (Max Wimer) とチェチリア・ゲルボヴァ (Cecilia Gelbová) の 2 人は引き続き必要であり，レオポルド・メンドリンゲル (Leopold Mendlinger) には少なくとも 1 ヶ月はいてもらいたい。

---

(46) USHMMA, RG-57.001M, 876/2013, Letter from 11 Nov. 1941.

(47) USHMMA, RG-57.001M, 876/2012, Letter from 20 Dec. 1941.

(48) USHMMA, RG-57.001M, 876/1991, Rozhodnutie o prevode židovskej účasti (Decision on the transfer of a Jewish share), no. 71710/III-4/41.

> 1942年6月12日，ブラチスラバにて，警戒せよ（ナ・ストラージ）[訳注12]。ヴェントゥルスカ通り22番地，書店店主，ルド・ミストリーク自署(49)

マックス・ステイネルとヨゼフ・ヤクブ・ステイネルは，ミストリーク＝オンドレヨフがこのような措置をとった後の数週間は，ブラチスラバで建設作業員として不法就労で生計を立てていた。マックス・ステイネルは1942年夏に逮捕，移送された。ヨゼフ・ヤクブ・ステイネルも1942年7月には逮捕，移送された。妻は一緒に行くと言ったが，夫を逮捕した警察官は［行かないようにと］説得した(50)。ホロコーストを生き延びた者はいない。

建前上アーリア化は，担い手がその資産を買い取ることを条件としていた。しかし，アウグスティーン・モラーヴェクの言う「革命的アーリア化 (revolutionary Aryanization)」なるものは，資産価額が確定しアーリア化の担い手の支払額［企業等の買上価額］が確定する以前に，資産の所有権が移転されることを原則としていた。ミストリーク＝オンドレヨフが収益を上げた2社のアーリア化に典型的に見られるように，中央経済局は企業価額の査定問題を数ヶ月かけて検討した。それでも，中央経済局はその価額を決定することができず，アーリア化の担い手にその企業価額の見積もりを約束させた上で，資産取得後10日以内に独自の見積りを出させることにした(51)。公式の査定に基づく精算はその後に行われた。

完全アーリア化 (complete Aryanization) の場合には，アーリア化の担い手がその企業の清算価額（基本的には資産総額）を支払うことになっていた。その一方で，元のオーナーが引き続き経営に参加する部分的アーリア化 (partial Aryanization) の場合には，清算価額から負債総額を引き去った金額がその企業の基礎価額とされた。

1941年9月30日にステイネル書店を丸ごと接収［完全アーリア化］することになったミストリーク＝オンドレヨフは，1941年10月1日に接収完了を中央経済局に報告した。また，10月20日にミストリーク＝オンドレヨフおよび元のオーナーであるマックス・ステイネルとヨゼフ・ヤクブ・ステイネルが署名し，さらに2人の証人が副署した1941年9月30日現在の事業報告には，総資産が36万3900.55スロバキア・コルナ，負債総額は14万6559.80スロバキア・コルナとある(52)。このとき，ミストリーク＝オンドレヨフは巧妙な一手を打った。負債を引き受けることにしたのである。これにより，完全アーリア化の場合であっても，その負債を資産から差し引くことができるようになり，こうしてミストリーク＝オンドレヨフが支払わなければならないとされる清算価額は21万7340.75スロバキア・コルナになり，債権者の請求分は，別途支払われることになった(53)。

しかし，数ヶ月が経った1942年3月23日には，ミストリーク＝オンドレヨフは中央経済局宛てに書簡を送り，元のオーナーとの間で合意し事業報告書からみずからの署名を撤回すると申し出た。その理由は以下の通り。

［訳注12］フリンカ警固隊の合言葉 “Na stráž!”（警戒せよ）で，“Heil Hitler!”（ヒトラー万歳），“Sieg Heil!”（勝利万歳）などのスロバキア・バージョン。

（49）Trančík, ref 1, p. 208.

（50）Trančík, ref 1, p. 207.

（51）SNA, f. Ministerstvo hospodárstva (Ministry of the Economy) (hereinafter MH), c. 404, Dokument „Rozdelenie podnikov“. (Document “Division of businesses”).

（52）USHMMA, RG-57.001M, 972/486-487, Zápisnica o majetkovom stave (Record of state of property from 20 Oct. 1941.

（53）Hammer - Harman- Ziman, ref 30, p. 39.

> 当該事業報告に署名したが，当時，私は重い病の床にあり，検討に要する時間がわずかに数日しかなく，営業記録をはじめとする詳細な付帯書類を十分に検討することは体調不良のために不可能であった。私は「善意」から署名したに過ぎず，資料を仔細に検討した上で，当該署名の有効性を拒否するものである。敬愛する中央経済局にあっては，当該文書を無効とみなすよう取り急ぎ要請する(54)。

ミストリーク＝オンドレヨフは，当該企業［ステイネル書店］の資産と負債をまったく別の方法で算出し，資産を小さく負債は大きくして，計算によれば 2 万 6173. 50 スロバキア・コルナを支払うだけでよいと主張した(55)［訳注13］。中央経済局に対してこの額を支払いたいと申出たが，さすがに承認されなかった(56)。

アーリア化の担い手が支払うべき金額の決定は，中央経済局の専決事項である。スロバキア監査管財人協会 (Slovenská revízna a dôvernícka spoločnosť: SRDS) の報告に基づいて，中央経済局が，企業価額を決定することになっていた。この協会には，スロバキア全土から何百ものアーリア化の担い手が送付した査定文書が殺到していたために，処理には数年を要した。ミストリーク＝オンドレヨフの書店［旧ステイネル書店］の場合も同様である。スロバキア監査管財人協会に書類が回ってきたのは，ようやく 1943 年 1 月 18 日になってからである。このときアウグスティーン・モラーヴェクとヴィクトル・ハルマンの 2 人は中央経済局をすでに退職していた。1942 年春には，中央経済局の状況と局長モラーヴェクによる決定について特別委員会が査察に乗り出し，その結果，モラーヴェクは 1942 年 7 月 1 日に辞任し，同局の元幹部全員が辞職することになったからである。

スロバキア監査管財人協会の監査は 4 日間に亘って行われた。ミストリーク＝オンドレヨフはその場には居合わせなかったが，アーリア化の担い手として支払わなければならない企業価額の見積額は，［当初は 21 万 7340. 75 スロバキア・コルナであったものが］最終的には 24 万 8180. 30 スロバキア・コルナとされた。監査人は，監査日までにミストリーク＝オンドレヨフが支払った金額が 1 万 1000 スロバキア・コルナのみであると指摘した(57)。ただし，スロバキア監査管財人協会が査定した企業価額は，中央経済局の決定を待たなければ公式の数字にはならなかった。1944 年 5 月 8 日，中央経済局は，スロバキア監査管財人協会の見積額を全額承認し，アーリア化された書籍等販売企業［旧ステイネル書店］の企業価額が最終的に決定された。1944 年 8 月 25 日までに，4 万 771. 10 スロバキア・コルナが支払われた(58)。

他方で，スロバキア監査管財人協会の監査人は，1942 年 6 月 19 日に，元のオーナーが

(54) USHMMA, RG-57.001M, 972/456, Letter from 23 March 1942.

(55) USHMMA, RG-57.001M, 972/457, Bilancia podniku.（貸借対照表 (Company balance sheet)。）この貸借対照表は 1941 年 10 月 1 日現在の記録である。中央経済局は，それを 1942 年 3 月 25 日付として，ルドヴィート・ミストリーク＝オンドレヨフが署名を撤回した 1941 年 10 月 20 日付書簡と一緒にしている。

［訳注 13］この金額は，当初の支払予定額の 12％に該当する。

(56) USHMMA, RG-57. 001M, 972/459, Žiadosť o povolenie splátok likvidačnej hodnoty. (Application for approval of instalments towards the liquidation value).

(57) USHMMA, RG-57.001M, 972/397, Revízna správa (Auditor’s report) SRDS, p. 7.

(58) USHMMA, RG-57. 001M, 972/156, Oznámenie Mestskej sporiteľne (Notification from the City Savings Bank) from 25 Aug. 1944.

以前に所有していたベルナート・ケンツレルの企業を訪問し，その決定価額を通告した[59]。当該企業には債務はないと報告された。最終的な価額が95万8158.20スロバキア・コルナと決定され[60]，そのうちミストリーク＝オンドレヨフの支払額は49万4381.05スロバキア・コルナになった[61]。この場にもミストリーク＝オンドレヨフは居合わせなかった。アーリア化の担い手でそのときにその場にいたのは，ミストリーク＝オンドレヨフ以外の者だけであった。監査報告書に次のように記載されている。

> 監査中ルドヴィート・ミストリークは事業所におらず，その所在を知る者はいなかった。このためにその資産状況を確定することができなかった[62]。

報告書には，ミストリーク＝オンドレヨフが監査の日までに，この企業価額の負担分のうちどれだけを支払っていたかについての記載はない。

あらゆる状況から見て，アーリア化の後も２つの会社は，ミストリーク＝オンドレヨフが積極的に関与しなくても，営業を続けていたと推測される。オーナーを追放した後も，かの文筆家は書店の店長としてヴィリアム・ジンゴル (Viliam Žingor) を継続して雇い入れ，しばらくはその人物が店長を務めていた[63]。ミストリーク＝オンドレヨフは，トゥルチアンスキー・スヴァティ・マルティンで家族と暮らし，時折ブラチスラバを訪れるくらいであった。２社からの収益を確認する文書はないが，1943年に会社が提出した公式の申告書を見れば，大まかな金額は推測できる。1943年に旧ケンツレル社から５万7054スロバキア・コルナを[64]，また同じ年に旧ステイネル書店からは４万1000スロバキア・コルナを受け取っている[65]。

ここで，アーリア化の対象企業の売却価額を徴収する問題に目を転ずると，ミストリーク＝オンドレヨフによる［ステイネル書店の］アーリア化にはその他のケースと類似している点がある。このことは，指摘しておく必要がある。ステイネル書店をアーリア化するとき，ミストリーク＝オンドレヨフはアーリア化の担い手として公式の承認はまだ受けていなかった。それにもかかわらず，資産価額が少しずつ支払われている。ただし，この書店のケースでは，企業価額の承認額24万8180.30スロバキア・コルナの全額は支払われてはいない[66]。翻ってケンツレル社については，総額95万8158.20スロバキア・コルナを［２人のアーリア化の担い手が］支払うべきところ，支払われたのは29万7041スロバキア・コルナだけである[67]。いずれのアーリア化でも，支払金の全額は，元のオー

(59) USHMMA, RG-57.001M, 876/1985, Revízna správa, SRDS, p. 1.
(60) USHMMA, RG-57.001M, 876/1987, Revízna správa, SRDS, p. 4.
(61) USHMMA, RG-57.001M, 876/1987, Revízna správa, SRDS, p. 4.
(62) USHMMA, RG-57.001M, 876/1989, Revízna správa, SRDS, p. 5.
(63) ヴィリアム・ジンゴルは監査のときに書店の店長として同席した。監査報告にはジンゴルの月給が2000スロバキア・コルナと記載されている。USHMMA, RG-57.001M, 972/392, Revízna správa, SRDS, p. 2.
(64) USHMMA, RG-57.001M, 876/2239-2240, Podrobný výkaz o výberoch spoločníka Ľ. Mistríka. (Detailed statement about the withdrawals of the partner Ľ. Mistrík).
(65) USHMMA, RG-57.001M, 972/164, Hlásenie podľa vyhlášky ÚHÚ (Report according to the declaration of the CEO) from 19 Jan. 1944, no. 30.
(66) SNA, f. MH, k. 404, Zoznam arizovaných firiem s vykázanými platbami, položka č. 923. (List of Aryanized firms with received payments, item no. 923).
(67) SNA, f. MH, k. 404, Zoznam arizovaných firiem s vykázanými platbami, položka č. 1639.

ナー名義の凍結口座または預託口座に振り込まれるのが建前であったのに，である。

その一方で，アーリア化の担い手となったミストリーク＝オンドレヨフのケースには特殊なところがあって，別の顔を持っている。ルダーク政権は，ミストリーク＝オンドレヨフがアーリア化した企業を 2 社とも召し上げたからである。これまでこの事実を取り上げた論文はない。アーリア化が取消処分となった根本要因は，ミストリーク＝オンドレヨフが，1944 年 8 月 29 日のスロバキア国民蜂起を鎮圧するためにナチス・ドイツ軍がスロバキアを占領したときに，蜂起軍に加担したことによると考えられる[訳注14]。

ブラチスラバで活動を始めた特別分遣隊(アインザッツグルッペ)第 H 部隊が，徐々にスロバキア西部と中部にも作戦の場を拡大した。その主要任務は，蜂起への参加者とその支援者をすべて制圧し，さらにスロバキアにまだ残っているユダヤ人を全員殺害することである。ブラチスラバに駐屯した第 H 部隊（第Ⅲ B 群）が発信した 1944 年 9 月 28 日付文書には，「［トゥルチアンスキー・スヴァティ・］マルティンにおける反乱の首魁の 1 人」(68) ミストリーク＝オンドレヨフはブラチスラバで 2 社を「アーリア化」していると書かれていて，2 社が詳細に調査されている。そこの従業員は全員を検挙するのが望ましいとも書かれている。ナチスが，この文書の中で特に目を付けられているのは，ミストリーク＝オンドレヨフとともにルド・ミストリーク商会［旧ケンツレル社］の共同経営者，シュテファン・ツェンクネルである。その文書には，ウィーンで学んだ経験があるこのツェンクネルは，チェコスロバキア主義者[訳注15]であり，しかも汎スラブ主義者[訳注16]であると書かれている(69)。

この文書がどのように影響したかは分からないが，1944 年 9 月 29 日，ドイツ兵とフリンカ兵［フリンカ警固隊員］によって旧ステイネル書店が閉鎖された。1944 年 10 月 10 日，中央経済局幹部の命を受けて書店に出向いた職員は，こう述べた。

> ミストリークはブラチスラバに 3 ヶ月間姿を見せていない。おそらくパルチザンと一緒なのだろう。

その翌日，フリンカ・スロバキア国民党本部は，ミストリーク＝オンドレヨフが「公然とパルチザン運動に加担した」(70) という理由で，この書店の所有権移転を取消すよう提案

［訳注 14］この日，バンスカ・ビストリツァで反政府，反ドイツの蜂起が勃発した（スロバキア国民蜂起 (Slovenské národné povstanie: SNP)）。この鎮圧のため，スロバキア政府はドイツに援軍を要請した。それに応じたドイツは，特別分遣隊(アインザッツグルッペ)第 H 部隊を派遣した。特別分遣隊(アインザッツグルッペ)は，治安維持と「敵性分子」の排除と殲滅に当たった。スロバキアは，この派遣をもってドイツの占領下に置かれ，1942 年 10 月以降中断していた強制移送が，再開された。

(68) Archiv bezpečnostních složek (Archives of the security services) (hereinafter ABS), f. Různé německé bezpečnostní složky (f. Various German security services) (135), 135-1-1/38, Vermerk.

［訳注 15］チェコ人とスロバキア人を 1 つの国家に統合することを目指す政治綱領。Cf. Elisabeth BAKKE, “Czechoslovakism in Slovak history,” (Abstruct,) in: Mikuláš TEICH, Dušan KOVÁČ, Martin D. BROWN (ed.), *Slovakia in History*, Cambridge University Press, 2011, Chap. 16, DOI: 10.1017/CBO9780511780141.017, Website of the *ResearchGate*, https://www.researchgate. net/publication/292255742, accessed on June 20, 2025.

［訳注 16］東欧および中欧東部のスラブ民族の民族的共通性を背景に文化的政治的統一を達成しようとして 19 世紀に起こった運動。Cf. “Pan-Slavism,” Website of *Britannica*, https: //www. britannica. com/ event/Pan-Slavism, accessed on June 20, 2025.

(69) ABS, f. Různé německé bezpečnostní složky (135), 135-1-1/38. Vermerk.

(70) USHMMA, RG-57. 001M, 972/119, Návrh GS HSĽS (Proposal from the General Secretariat of HSPP) no. 17.614/DJ/R/1944 from 11 Oct. 1944.

した。その数日後の10月20日，中央経済局は書店の出入り口を鉛で封印した(71)。フリンカ・スロバキア国民党は書店を一時的な管理下に置くことを提案し，一時的管理者には教授ベロ・ポラ (Belo Polla) を据えた(72)。1944年11月30日，中央経済局は，アーリア化したミストリーク＝オンドレヨフへの［旧ステイネル書店の］資産移転を取消処分とした(73)。その後，さらに別の決定により旧ステイネル書店は，政治宣伝（プロパガンダ）局長の個人秘書オットー・カウシッツ (Otto Kaušitz) とシュテファン・ブルチャーク (Štefan Burčák) の2人に下げ渡された(74)。

その一方で，ルド・ミストリーク商会［旧ケンツレル社］については，10月20日，フリンカ・スロバキア国民党事務局長は，「パルチザンに加担し，その立場を申告していないルドヴィート・ミストリーク」(75) が50%の株式を保有していることを理由として，中央経済局にあっては同社を一時的管理下に置くようにと提案した(76)。この件についてさらなる対処を促された中央経済局長は行動を起こして，1944年11月9日，アントン・シュパレク (Anton Špalek) を旧ケンツレル社の一時的管理者に任命した(77)。その数週間後(1944年12月5日)，中央経済局は，株式の50%をルドヴィート・ミストリーク＝オンドレヨフに譲渡するとの決定を取り消した。同日，ルド・ミストリーク商会の50%の株式は，ラディスラフ・ミュラー (Ladislav Müller) に譲渡された(78)。このころルダーク政権の息のかかった報道機関が，ミストリーク＝オンドレヨフについて報じた。そして11月25日，日刊紙『警固隊員 (*Gardista*)』［フリンカ警固隊の機関紙］はアーリア化の担い手でありながら，パルチザンに加わった作家としてその名を公表した(79)。

12月初旬になると，中央経済局に対してミストリーク＝オンドレヨフからの反応があった。中央経済局長宛の書簡はこうである。

> 最も尊敬する局長閣下
>
> 貴中央経済局は，私がアーリア化（ナチスによる資産没収）したヴェントゥルスカ通り22番地の書店（ミストリーク書店，旧ステイネル書店）についての譲渡を取消すとともに，私が株式を保有していたクロブチュニツカ通り4番地にある商社［ルド・ミストリーク商会］についても譲渡を取消す旨の命令を発出しました。これらの措置は，とある新聞の記事（複数）の中で，氏名不詳の者が私のことをスロバキア蜂起もしくはパルチザン運動に加担したとして非難したことを理由にしています。
>
> これらの捏造記事に直接反論しように

(71) USHMMA, RG-57.001M, 972/111, 124, Úradné záznamy (Official records) from 10 Oct. 1944 and 20 Oct. 1944.

(72) USHMMA, RG-57.001M, 972/117, Úradný záznam from 31 Oct. 1944.

(73) USHMMA, RG-57.001M, 972/115, Rozhodnutie o zrušení prevodu podniku (Decision to cancel the transfer of a business) no. II/F/597/10/44 from 30 Nov. 1944.

(74) USHMMA, RG-57.001M, 972/139, Rozhodnutie o prevode podniku (Decision on transfer of a business) no. II/F/597/10/44 from 30 Nov. 1944.

(75) USHMMA, RG-57.001M, 876/1915, Návrh GS HSĽS č. 17.449/Dr.Mi/R/1944 from 20 Oct. 1944.

(76) USHMMA, RG-57.001M, 972/139, Rozhodnutie o prevode podniku (Decision on transfer of a business) no. II/F/597/10/44 from 30 Nov. 1944.

(77) USHMMA, RG-57.001M, 876/1906, Rozhodnutie II-B-4579/4-1944.

(78) USHMMA, RG-57.001M, 876/1909, 1900, Rozhodnutie o zrušení doč. správy, Rozhodnutie o prevode 50% účasti Ľ. Mistríka. (Decision to cancel temporary administration. Decision on transfer of the 50% share of Ľ. Mistrík.)

(79) „Vyvraždiť spisovateľov?“ (“To kill writers?”) In *Gardista*, year 6, no. 263, p. 1.

も，病気（肺炎）により貴局に出頭することが叶わず，パルチザンの中はおろか，パルチザンの外にあっても蜂起とは一切関わりを持っていないことをこの書面で申し上げる次第です。トゥルチアンスキー・スヴァティ・マルティンの市民である私は，ブラチスラバから疎開してからというもの，全生活の面倒を見なければならない２人の幼い子どもをはじめとする家族を，迫りくる戦線から避難させることに精一杯努めてきました。また，アーリア化を実行し，ユダヤ人に害を与え，スロバキア国を支持した人物としてマークされている私のことを，蜂起軍が見逃すとは思われません。

私に対するこれまでの非難の真偽を調べた人は誰もいません。すべてが直ちに明らかになり，私についてこのような愚かで虚偽を言い立てた悪意のある人物が，法の裁きを受けることを願っています。貴中央経済局にあっては，私に対してその調査結果を待つよう指示することをお願いします。警戒せよ(ナ・ストラージ)！　ルド・ミストリーク[80]

作家ミストリーク＝オンドレヨフの手になるこの書簡は，これまでどの歴史学者からも公表されておらず，したがって検討されることもなかった。この書簡を読めば，ミストリーク＝オンドレヨフが当時の状況をどのように見ていたか，ルダーク政権の現状と未来，さらには当時の蜂起に対する彼の見解はどのようなものであったかという疑問が湧いてくる。とは言え，ユダヤ人資産のアーリア化は，見るに耐えず聞くにも耐えない 20 世紀スロバキア史の痛ましいテーマである。ミストリーク＝オンドレヨフのケースが示すように，スロバキアにおけるアーリア化の記録文書は，一般市民にとどまらず，文化人としても著名な人物の知られざる人間性を浮き彫りにすることが，多々ある。アーリア化に加担したミストリーク＝オンドレヨフは，スロバキアの全体主義ルダーク政権から様々な形で利益を得た作家の１人としてその仲間入りを果たした[81]。

(80) USHMMA, RG-57.001M, 972/96, Letter from 7 Dec. 1944.

(81) 本研究は「個人と社会 ── 歴史過程における相互作用 ── (*Indivíduum a spoločnosť - ich vzájomná reflexia v historickom procese*)」(APVV-15-0349) および「1942 年～1945 年におけるスロバキア経済の興隆と没落 (*Vzostup a pád hospodárskeho vývoja Slovenska 1942-1945*)」(VEGA 2/0043/16) による研究成果の 1 部である。

解　題

1940年7月，ヒトラーはスロバキア首脳（大統領ヨゼフ・ティソ，首相ヴォイテフ・トゥカ，フリンカ警護隊総司令官アレクサンデル・マッハ）をザルツブルクに招いた。前年に締結した保護条約の破棄をも辞さない態度で臨んだドイツ側は，(1)政権の中枢にあったティソなどのフリンカ・スロバキア国民党穏健派(1)（訳出したフラヴィンカ論文では「保守派」と言われている。）を廃し，トゥカとマッハを中心とする同党急進派による政権運営に変えるとともに，(2)内政の各分野に専門家を「顧問官 (Berater)」として派遣することなどを主張した(2)。このザルツブルク会談に基づいて「ユダヤ人問題」の専門家として派遣された顧問官が，ディーター・ヴィスリチェニーである。彼が策定した「ユダヤ人問題」の解決案は，ユダヤ人を経済と社会の各分野から排除し，資産を奪い，生活に困窮したユダヤ人を旧ポーランド領の収容所に強制的に移送し，そこで絶滅させるというものであった。以後，このヴィスリチェニー・プランに沿って反ユダヤ政策が繰り出され，スロバキア・ホロコーストの「頂点（クライマクス）」（イヴァン・カメネツ）と言われる1942年強制移送に向けて進んでいった。

ユダヤ人資産に対する「国家保証の強奪」（エドゥアルド・ニジニャンスキー）は，「ユダヤ人問題」を解決するための強制移送とひと続きの措置である。ユダヤ人資産の強制的接収は，「アーリア化 (Arisierung, Aryanization, Entjudung der Wirtshchaft)」と言い，ユダヤ人が所有する資産（企業，土地，株式等）を全部もしくは一部を接収しアーリア人に譲渡させることを本旨とする。このとき，所有権を新たに所有することになった者を「アーリア化の担い手 (Aryanizer（英），Arisator（独))」と言う。

ここに訳出した論文の中でヤーン・フラヴィンカ（スロバキア科学アカデミー歴史研究所）が指摘しているように，ヴィスリチェニーが赴任するまでは，1940年6月に施行された「第一次アーリア化法」が有効であって，ユダヤ人財産についてはそのオーナーがアーリア人（スロバキア人）の中から共同経営者を選別する「自主的アーリア化」が可能であった。ところが，ザルツブルク会談以降は，急進派の方針でアーリア化が進められた。1940年9月，首相トゥカは首相府直属のアーリア化専門部局として中央経済局 (Ústredného hospodárskeho úradu: ÚHÚ) を設置し(3)，これによって経済省はアーリア化の主管部局ではなくなった。中央経済局は省に相当する部局と位置づけられた。ティソは，アーリア化に関する首相の顧問を務めていたアウグスティン・モラーヴェクを局長に据えて大臣待遇とした。中央経済局はアーリア化の担い手を人選し，同局長がそれを任命した。さらに1940年11月には「第二次アーリア化法」が施行され，「自主的アーリ化」が廃止された。

フラヴィンカ論文は，スロバキアの著名作家と言われるルドヴィート・ミストリーク＝オンドレヨフ (Ľudovít Mistrík-Ondrejov)（1901

(1) ティソ一派は，ユダヤ人の労働市場に占めるシェアが4％であったことを根拠にして，ユダヤ人労働者を4％までは就業させる「人数制限 (Numerus Clausus)」原則を基準とした。急進派はこれを甘いと批判し，急進派が政権を掌握したザルツブルク会談以降はこの原則が撤廃された。

(2) このほかに，ザルツブルク会談では(1)独自の外交路線を歩もうとした外務大臣デュルチャンスキーの更迭，(2)総統制の導入が合意された。

(3) ただし農地のアーリア化を所管したのは国土庁であり，森林のアーリア化は経済省が取り扱った。

略　年　表

		アーリア化関連	ステイネル書店 （書籍楽譜小売業） 単独経営	ケンツレル社 （布製品（テキスタイル）卸売業） 共同経営
1940 年	6 月　1 日	第一次アーリア化法（1940 年法律第 113 号）		
	7 月 28 日	ザルツブルク会談		
	8 月		ステイネル兄弟（オーナー），「自主的アーリア化」（チャーコスとの共同経営）の方針策定	
	9 月　3 日	憲法改正（1940 年法律第 210 号）により，ユダヤ人問題を解決するために 1 年間に限り立法権を行政府に移譲（授権）		
	9 月 16 日	中央経済局設置（首相府直属）		
	11 月	第二次アーリア化法（1940 年政令第 303 号）		
1941 年	6 月		**アーリア化申請** 手持ち資金はないが，5 万コルナの融資が保証されている，と申請書に記載。	**左の 4 日後にアーリア化申請** 借入金 5 万スロバキア・コルナの他に文学作品の印税収入として 10 万コルナがあると申請書に記載。 「ユダヤ人による非合法の経済活動に関与したことがないことを証明できるか。」との問いに対する回答は以下のとおり。「どのユダヤ人とも交渉したことはない。」
	7 月　8 日			**部分的アーリア化（C 型アーリア化）決定**（元オーナーおよびツェンクネルとともに 3 者による共同経営）
	9 月　9 日	ユダヤ法（ユダヤ人の法的地位に関する 1941 年政令第 198 号）	**完全アーリア化（B 型アーリア化）** （アーリア化の排他的担い手）	
	11 月 11 日			**元オーナーを経営から排除し，**その持分すべてを共同経営者ツェンクネルとの等分を申請
1942 年	3 月 15 日			中央経済局決定により 2 人の共同経営者の持ち分を 50% ずつに増加
	6 月 12 日		**ステイネル一族を解雇**	
	6 月 19 日			企業買上価額決定 （95 万 8158.20 コルナ）
	7 月　1 日	モラーヴェク，中央経済局長解任		
1944 年	5 月　8 日		企業買上価額決定 （24 万 8180.30 コルナ）	
	8 月 29 日	スロバキア国民蜂起		

9月28日	特別分遣隊（アインザッツグルッペ），ミストリーク＝オンドレヨフを「反乱の首魁の１人」，またケンツレル社の共同経営者ツェンクネルをチェコスロバキア主義者，汎スラブ主義者と断定		
9月29日		店舗閉鎖	
11月　9日			別人を一時的管理者に指定
11月30日		アーリア化の取消処分	
12月　5日			アーリア化の取消処分
12月 初旬		抗弁書提出	

（注）本文に基づき作成。ステイネル書店とケンツレル社の欄は，主としてルドヴィート・ミストリーク＝オンドレヨフ関係。

年～1962年）（以下，「ミストリーク＝オンドレヨフ」とも表記する。）によるアーリア化を取り扱い，「アーリア化に加担したルドヴィート・ミストリーク＝オンドレヨフは，スロバキアの全体主義ルダーク政権から様々な利益を得た作家としてその仲間入りを果たした」ことを明らかにしている。アーリア化を取り上げる論文では，アーリア化の担い手の選考が，政権中枢の有力者との縁故関係を含む個人的関係だけではなく，政権党であるフリンカ・スロバキア国民党，あるいはその準軍事組織（フリンカ警固隊）の幹部との私的関係に影響を受けたと指摘されることが多い。ユダヤ人が「簒奪」した資産を，アーリア化によってスロバキア人が取り戻せば，豊かな生活が約束される，と政府が宣伝していたにもかかわらず，その「恩恵」に浴した者は限られた範囲しかいないとも言われている。フラヴィンカ論文は，ミストリーク＝オンドレヨフの妻（オルガ・ハイマノヴァ）のきょうだい（ヴィクトル・ハイマン）が中央経済局法務部長であり，アーリア化法の解説書に執筆していることに言及し，義兄弟の庇護（みびいき）によって，ミストリーク＝オンドレヨフがアーリア化の担い手になることができたと指摘し，アーリア化の恣意的運用を具体的に明らかにしている。さらに，同一人物は複数企業をアーリア化することができないにもかかわらず，ミストリーク＝オンドレヨフは，布製品（テキスタイル）の卸売を業とするケンツレル社と書籍販売業を営むステイネル書店の２社をアーリア化したことが述べられている。これら２社はそれぞれの業界における最大手であった。２社には，ユダヤ人の旧オーナー（あるいは姻戚関係にある者）が就業していたが，後にミストリーク＝オンドレヨフは，元オーナーとその一族などの関係者を解雇，追放し，収容所に移送させるように仕向けたことも指摘されている。

フラヴィンカ論文は，上述した２社のアーリア化を具体例として分析しアーリア化がスロバキアでどのように進行したかを明らかにしている（略年表参照）。スロバキアのアーリア化法制は段階を経て「完成度」を高め，細かな規定が「ユダヤ人の法的地位に関する1941年政令第198号」（1941年９月９日制定）(4) に収録されている。この政令は一般に

（4）Nariadenie zo dňa 9. septembra 1941 o právnom postavení Židov, Website of the *Ústav pamäti národa: ÚPN* (Institute for the Memory of the Nation), https:// www. upn. gov. sk/data/pdf/vlada_198-1941. pdf, accessed on Apr. 28, 2025. [English version] “Degree on the Legal Status of Jews (Documents),” *Judaica Slovaca Series*, Volume 132, First Edition Bratislava 2022. Published by the SNM - Museum of Jewish Culture (SNM: Slovenské národné múzeum - Múzeum

「ユダヤ法 (Židovský kódex, Jewish Codex)」と言われるが，現在入手可能な英語版は 1943 年 3 月 5 日に「改正」された政令であり，フラヴィンカ論文が取り扱うケースのように，アーリア化の申請途上で法的根拠が変更されている場合には，条文を読んだだけでは，そこに落とし込まれている反ユダヤ主義が具体的な申請行為とアーリア化のプロセスの中でどのように表出したか，あるいは改正法令（政令）を申請者はどのように活用してアーリア化を進めたかが分かりにくい。フラヴィンカ論文は，この経緯を具体的に説明している。そして，普遍（法理）は個別（具体的なアーリア化）の中に貫徹し，個別の中にこそ普遍が現象することを明らかにしている。また，スロバキア国籍を有する者とドイツ国籍を有する者からアーリア化が申請されるときには，フリンカ・スロバキア国民党とドイツ人党（マイノリティ・ドイツ人の政党）の代表者で構成される「合同委員会」が，アーリア化の担い手について意見を述べるシステムによったことが具体的に指摘されている。

1944 年 8 月 29 日に反政府，反独の蜂起（スロバキア国民蜂起）が勃発した。ミストリーク＝オンドレヨフはこの蜂起に加担したとして，2 社に対するアーリア化が取り消された。それに対する本人の抗弁が新発見の資料により明らかにされた。

2025 年 8 月 22 日

木　村　和　範

židovskej kultúry). Editor-in-chief of the series: M.A. Michal Vaněk, PhD.; Translation: Alan Dykstra, Karol Mikloš; Type setting and graphic design: Virvar s. r. o.; Printing: Virvar s. r. o.; ISBN 978-80-8060-526-1. ［日本語版］「ユダヤ人の法的地位に関する 1941 年スロバキア共和国政令第 198 号」（木村和範訳）『経済論集』（北海学園大学）第 73 巻第 2 号，2025 年 11 月。